

第23回福島ダイアログ

「処理水をめぐる課題を福島で考える、
世界と考える」



2018年第19回福島ダイアログ @南相馬

写真：宮井優



2021年11月28日（日） 9時～17時

午前：発表

午後：ダイアログ

（パネル・ディスカッション）

みんなの交流館 ならはCANvas

Zoom を用いたオンライン配信

*会場は、発表者とパネリストのみ利用予定。

日英同時通訳付

協賛：

日本保健物理学会

日本リスク学会

フランス原子力防護評価センター(CEPN)

フランス放射線防護原子力安全研究所(IRSN)

主催：NPO法人福島ダイアログ

info@fukushima-dialogue.jp

<http://fukushima-dialogue.jp>

Facebook: @FukushimaDialogue

Twitter: @NPOFksmDialogue

開催のねらい

今年で、東京電力福島第一原子力発電所事故から10年が経ちました。

事故の影響を受けた地域では、日常をすっかり取り戻した地域や、前向きに進んでいる地域も人もいる一方、まだ課題が残されている地域や人もあります。なかでも、現在、もっとも大きな話題となっているのが、原発構内に溜まっている「水」の取り扱いです。

日本政府は、2021年5月に処分方法を海洋放出にすると決定し、現在、関係者の間で協議が進められています。けれど、まだ多くの人の中には、割り切れない思いが残っています。もっと知りたいこと、言いたいこと、確認したいことがある、他の人の意見も聞きたいのに誰がどう考えているのかもわからない、そんな思いを抱いている人は多いのではないのでしょうか。

そこで、福島ダイアログでは、処理水をめぐる意思決定をテーマとして関係する方達の意見を聞き、話してもらい集まりを開くこととしました。今回は、「賛成」「反対」の意見を議論をするための集まりではありません。どうすればよかったのか、どうしていくのがいいのか、それぞれの立場や考え方で違ってくる、それぞれの現在の状況認識や課題を話してもらい、それぞれが考える材料にしていきたいというのが、今回の集まりの狙いです。

また、処理水の処分をめぐっては、世界的にも処理方法だけではなく、その意思決定プロセスも関心を持たれています。日本では、福島では、何が問題となり、どのように話し合われているのか、そこにも注目が集まっています。

原子力関係の施設のあるところは世界のどこでも、施設のあり方や廃棄物などの処分をめぐって、施設（行政）と地域住民や社会と係争になることが少なくありません。今回のダイアログでは、オンライン（zoom）で海外とも繋ぎ、フランスの原子力施設周辺で設立されている地域住民協議会（ANCCLI）のYves Lheureuxさん、そしてカナダでの住民と原子力施設との協議に関わってきたPippa Feinsteinさんに海外での経験もお話しいただき、同時に、日本の状況がどのように見えるかコメントも頂戴する予定です。

日英同時通訳を介して、海外の方にも日本の状況をお伝えする機会にしたいと思います。



本ダイアログは、議論の公正性を保つために、補助金などの外部資金は利用せず、寄付金のみで運営いたします。ご支援よろしくお願ひ致します。

●ゆうちょ銀行

【記号・番号】 18220-38579651

【加入者名】 特定非営利活動法人福島ダイアログ

●ゆうちょ銀行以外

【店名】 八二八（ハチニハチ）店

【店番】 828

【預金種目・口座番号】 普通預金 3857965

【名義】 特定非営利活動法人福島ダイアログ

*クレジットカードはPayPalをご利用になれます。



下記リンク先「送信」から任意の金額をご寄付いただけます。

https://paypal.me/npofd?locale.x=ja_JP

こちらをご利用いただけます。

<http://fukushima-dialogue.jp/>